

おかげさまで20万台

アロカの超音波診断装置は世界で初めて20万台を越えました



これはひとえにユーザーである医師・検査技師の皆様、開発にご協力・ご助言を頂いた先生方、協力会社、社員、先輩のみなさまの支えがあつての成果です。今後も、ひとにやさしい超音波診断装置の開発を通して皆様の健康に貢献してまいります。

アロカ株式会社
代表取締役社長 吉川義博

お客様各位、

アロカは超音波診断装置のパイオニアとして黎明期から開発に取り組んで参りましたが、2006年12月時点で20万台という一つの区切りを迎えることができました。

超音波診断装置の生産累計台数を単独企業で20万台を達成したのは、我々の知るかぎり、世界で初めてとなります。

アロカは1960年に我が国初の超音波診断装置 SSD-1 をBモード（断層像）乳腺診断用として発表致しました。1960年代後半からは世界各国への輸出も開始し、全世界で活躍しています。アロカは今日の超音波診断装置では欠くことのできない「コンベックス探触子」、血液の流れの状態を映像化する「カラードプラ」を世界に先駆けて開発・製品化しました。

最近の日本の超音波診断装置市場は、年間10,000台弱の需要があると言われていています。したがって、アロカ1社で日本の全ての超音波診断装置を20年以上に亘って供給し続けたことと同じ事になります。



超音波診断装置20万台への軌跡

超音波診断装置開発の契機

1950年（昭和25年）に順天堂大学外科教室の田中憲二教授（当時）ならびに和賀井先生（順天堂大学名誉教授）が日本無線（株）を訪問し、魚群探知機を応用して生体の検査をしたいと申し入れられたことが契機となりました。当時すでに1MHzないし5MHzの超音波探傷器が開発されており、この装置を用いて同教室と協力し超音波技術を医学に応用する研究を開始しました。



世界初のAモード超音波診断装置

リアルタイム表示の開発

心臓のように常に動いている臓器を診断するためには、リアルタイムで画像を表示しなければなりません。アロカは世界に先駆け超音波診断のリアルタイム化を研究し、その成果を1971年の日本超音波医学会で発表いたしました。

カラードプラの開発

1980年、血流情報をリアルタイムで映像化できる二次元血流映像法（カラードプラ）の研究を開始し、その成果を1982年の第三回世界超音波医学会で発表し、1983年に世界初の循環器用カラードプラ（SSD-880）を製品化い



循環器用カラードプラ
SSD-880



腹部・術中用カラードプラ
SSD-350

たしました。1985年には世界初の腹部・術中用カラードプラ（SSD-350）を製品化いたしました。

3次元表示の開発

今日では出生前に胎児の細かい表情や動きなどを立体的に表示する三次元超音波表示が普及しつつあります。アロカは三次元表示機能を1996年に製品化し、現在殆どの製品でのオプションとして利用できます。



プロサウンドシリーズ

ひとにやさしい超音波診断装置を目指してアロカではプロサウンドシリーズの超音波診断装置を世界展開しています。手軽に使える画像診断モダリティとして、超音波診断装置は今後も進化を続けていきます。



データ提供：Dr.Lemasle, Le Chesnay, フランス



お客様に満足いただける製品とサービスをお届けします。
事業活動の全分野で環境保全に配慮しています。

アロカ株式会社

本社 〒181-8622 東京都三鷹市牟礼 6丁目2番1号
メディカルシステム営業部 (0422)45-5121
www.aloka.co.jp